大森青べかカヌークラブ

舟は古来から採集、狩猟、運搬につかわれていました。いまでは、スポーツとして川下りや海でカヌーやカヤックが使われています。舟は水面を自由に歩ける道具です。体力と判断力と運があれば、遠く世界中を旅することもできます。

大田区矢口小学校の6年生が卒業記念として製作したべか舟（平成17年卒業）

大森の海で使われていたべか舟

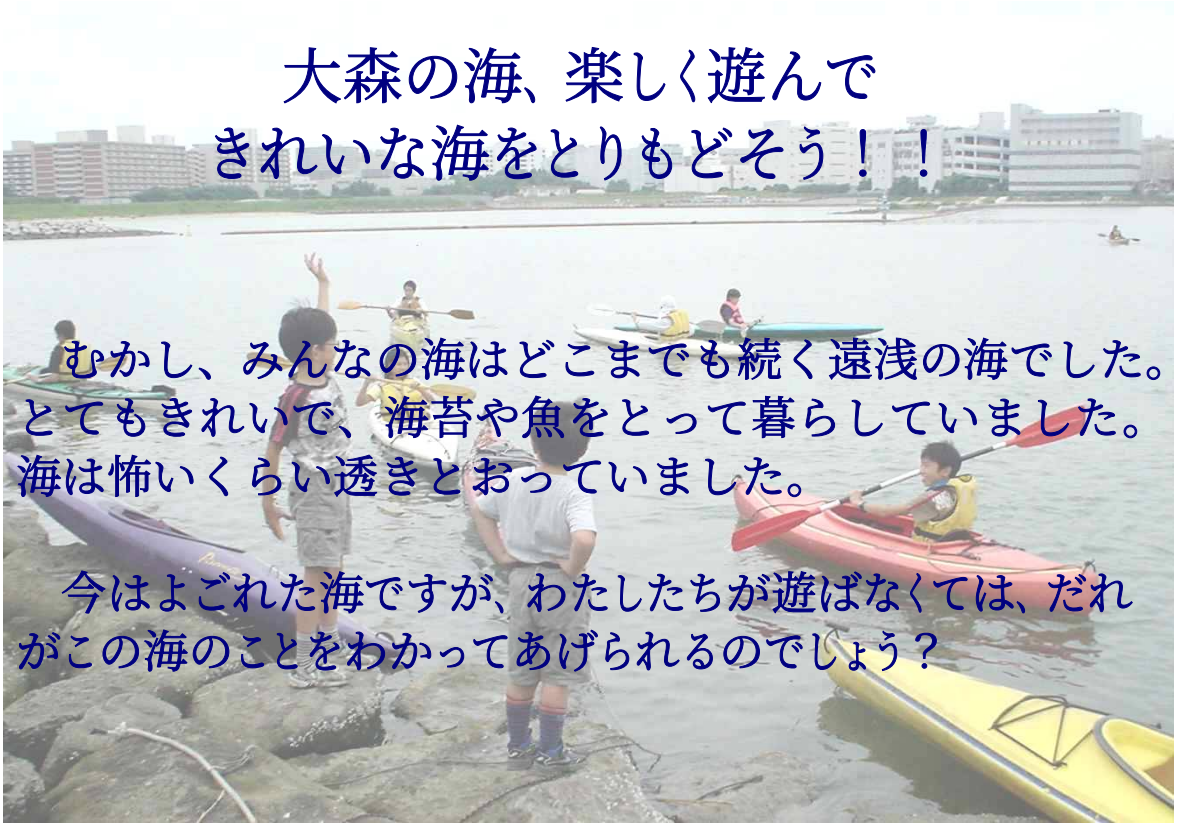
羽田・大森の海で海苔の栽培が盛んなころ。べか舟は海苔採り舟のことで、長さ1丈5尺（4.5m)幅2尺5寸（0.8m)の小船のことです。クラブの名前は、山本周五郎の「青べか物語」に出てくる青いペンキで塗られたべか舟に由来しています。

舟の歴史

もともと舟は丸木舟から進化しました。イヌイットの人々が使っていた“QUAJA”（クアヤ）は、海で動物を狩るためのスピードの早い「獣皮船（じゅうひせん）」という意味で、“KAYAK”（カヤック）の語源になったといわれています。運搬用として使っていたオープンデッキの「皮舟」は、“UMIAK”（ウミアク）と呼ばれ「女の舟」という意味です。“CANOE”（カヌー）の語源は、カリブ諸島地域の“CANOA”（カノア）が語源で、「船首と船尾がとがった、櫂（かい／パドル）でこぐ舟」という意味です。
（参考資料：冒険カヌーアイランド）

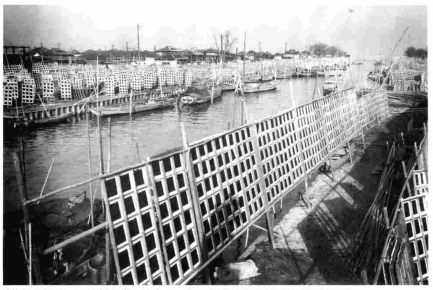
大森青べかカヌークラブ
代　表：長谷川充弘
メール：airfox77@n00.itscom.net
ホームページ：http://home.u00.itscom.net/aobeka/index.html

大森青べかカヌークラブの願い



きれいな海だったころ使われていた**べか舟**
大田区大森沖・昭和 30 年代（田口久雄氏撮影）

テンマ揚げ場にならぶべか舟



海苔の天日乾燥
大田区大森昭和 30 年代

（以上の資料提供は大田区立郷土博物館「消えた干潟とその漁業」1989 年 5 月発行から）